

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
【部門区分】第6部門第2区分
【発行日】平成17年7月21日(2005.7.21)

【公開番号】特開2000-89276(P2000-89276A)
【公開日】平成12年3月31日(2000.3.31)
【出願番号】特願平10-256400
【国際特許分類第7版】

G 0 3 B 5/00

G 0 2 B 7/04

G 0 3 B 17/04

【F I】

G 0 3 B 5/00 E

G 0 3 B 17/04

G 0 2 B 7/04 D

【手続補正書】

【提出日】平成16年12月7日(2004.12.7)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

単一のモータの駆動を利用して撮影レンズをもった移動筒をカメラボディの内部に収納した沈胴位置とカメラボディから突出させた突出位置との間で移動させるレンズ移動装置において、

前記モータの駆動によって光軸を中心として回転するカム筒と、このカム筒に設けられ、光軸を中心とする回転方向に連続して繋がっており、前記移動筒を沈胴位置から突出位置を経由して再び沈胴位置に移動させる無限循環の軌跡をもったカムと、前記移動筒に設けられ、前記カムに係合するカムピンとを備え、

前記カムには、前記移動筒を移動させる軌跡の途中に、撮影レンズを所定の被写体距離に合焦させる、少なくとも1つの合焦位置に前記移動筒を案内する案内部が設けられていることを特徴とするレンズ移動装置。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

【課題を解決するための手段】

上記問題点を解決するために、本発明のレンズ移動装置は、モータの駆動によって光軸を中心として回転するカム筒と、このカム筒に設けられ、光軸を中心とする回転方向に連続して繋がっており、移動筒を沈胴位置から突出位置を経由して再び沈胴位置に移動させる無限循環の軌跡をもったカムと、前記移動筒に設けられ、前記カムに係合するカムピンとを備え、該カムに、移動筒を移動させる軌跡の途中に、撮影レンズを所定の被写体距離に合焦させる、少なくとも1つの合焦位置に前記移動筒を案内する案内部を設けたものである。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 4】

【発明の効果】

以上説明したように、本発明のレンズ移動装置では、沈胴位置と突出位置との間で移動筒を移動させるカムを、光軸を中心とする回転方向に連続して繋げ、移動筒を沈胴位置から突出位置を経由して再び沈胴位置に移動させる無限循環の軌跡にし、その軌跡の途中に、撮影レンズを所定の被写体距離に合焦させる、少なくとも1つの合焦位置に移動筒を案内する案内内部を設けたから、単一のモータの駆動を利用して移動筒を沈胴位置から突出位置に移動させ、且つ撮影レンズの合焦も行えるから、モータを2つ用いた従来技術と比較して安価に達成することができる。